１１月６日（金）

「幼小交流（あきのおもちゃまつり）」

兵庫教育大学附属小学校１年生が「あきのおもちゃまつり」に５歳児すみれ組、わかば組の子どもたちを招待してくれました。１年生が数名のグループや個人で考えて作ったおもちゃがたくさんありました！幼稚園の子供たち、とても楽しんでいました！



どんぐり転がし！ここがゴールだよ！



自動販売機！何が出るかな？



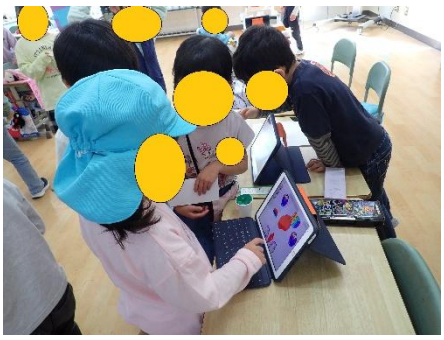
どんぐりを、この穴にいれてね



人形劇がはじまるよ～



的あて！
いくつ倒れるかな？



タブレットでゲームを作ったよ！やってみて！



ゴールできたら、音が鳴るよ！



魚釣りができるよ～

　１年生の作ったおもちゃは、どれもよく考えて作られていました。「どんなおもちゃを作ろうかな？」とイメージし、計画をし、試し、振り返り、また試し…繰り返しながら、おもちゃを完成させたようです。幼稚園の子どもたちの遊びにもこのような考え、試し、繰り返すというサイクルは見られます。１年生の子どもたちの今の姿につながる大切な経験だと再認識しました。

　幼小接続時期に同じようなサイクルで、幼児は「遊び」、小学生は「学習」をしており、それは子供たちにとって、学びや育ちにつながる大切な経験です。